

校訓	真善美	平成30年度学校だより	発行日	平成31年1月8日
教育目標	自主、自立、感謝の精神を抱き、 未来を拓く生徒の育成 豊かな心、確かな学力、健やかな体を育てる	「荒中だより」 第30号	発行者	伊丹市立荒牧中学校 校長 難波 重之

平成31年年頭に当たって

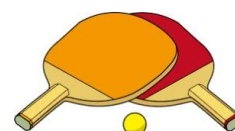
皆さん、あけましておめでとうございます。平成最後、そして新しい年号にかわる記念すべき年を迎えました。お正月には家族や親せき、友達などが集まり仲良く楽しい時間を過ごせましたか？



この冬休みにたいへん嬉しいニュースがありました。**男子卓球部が、県新人大会で団体優勝の快挙**を見事成し遂げました。最近は何の競技においても、ジュニアの早い段階からその競技を始める人が増えています。中学校では、早く競技を始めた選手がたくさんいる学校が勝ち上がっていく傾向にあります。しかし、荒中卓球部は中学校から始めた人がほとんどです。競技歴や経験値の差をうめたものは、**卓球に賭ける情熱とひたむきさ**でした。顧問の先生は、「みんな卓球が大好きで、時間があればいつまでもやっている、^{すんか}寸暇を惜しんで頑張れる子達です」とおっしゃっています。また、学校生活も真面目でクラスや生徒会においても一生懸命に活動している人達です。普段から集中して明確な目標に向かってコツコツと努力を継続でき、時間の使い方が上手なのだろうと思います。これからは追われる立場になりますから、今まで以上にたいへんになるかもしれませんが、



3月の全国大会に向けてさらに頑張ってください。



『時間の使い方』について、以前皆さんに話しをした大谷翔平選手のエピソードを紹介します。大谷選手は、2015年のプロ野球オールスターゲームに先発登板したその夜、テレビ番組に生出演をしました。番組終了後、出演のお礼に食事に行きましようとする番組スタッフがお店を予約しようとしたところ、彼は笑顔でこう答えたそ

うです。「お店は予約していただかなくて大丈夫ですよ。テレビ局の社員食堂へ行きましょう。お店に向かう移動時間のことを考えると時間がもったいないので」と。

そしてその後大谷選手は、テレビ局の社員に混じって牛丼をおいしそうに食べたそうです。大谷選手がメジャーリーグでも高い次元で二刀流を実現できた背景には、彼の時間に対する強いこだわりがあり、緻密で妥協のないタイムマネジメント能力が、「大谷翔平」をつくりあげていると言われているのです。

よく1月は「いく」、2月は「にげる」、3月は「さる」と言い、時間の過ぎゆくはやさを表します。3年生は中学校生活最後の42日間になります。その3年生に、パナソニックの創業者松下幸之助さんの『道』という詩の一部を紹介します。

自分だけに与えられているかけがえのない道。

**他人の道に心奪われ、思案に暮れて立ちすくんでいても道は
少しもひらけない。**

道をひらくにはまず歩まねばならぬ。

それがたとえ遠い道のように思えても、

休まず歩む姿からは必ず新たな道がひらけてくる。

深い喜びが生まれてくる。



今3年生は、『進路』そして『卒業』というゴールを意識して生活しています。この道からは決して逃げることはできない自分だけの道です。今までは周りに助けてもらい励ましてもらってきた人も、最後は自分の足でしっかり歩まなくてはなりません。自分で歩んだ道の目的地には必ず『結果』が待っています。『深い喜び』を伴う結果になるかどうかは皆さん次第です。全ての人に平等にある時間を最大限に有効に使い歩んでください。全ての荒中生にとって、この3学期がたくましく前向きに歩んでくれることを願っています。

自信と誇りを持てる

学校を創ろう!!

